

秋田県
議会便り

No.30

こんにちは



発行 石田 寛

県議会控室 TEL.018-860-2070
〒010-8570 秋田市山王4丁目1-1
大館事務所 TEL.0186-42-1877
〒017-0896 大館市宇大館105

ごあいさつ

残暑お見舞い申し上げます。

5月の集中豪雨によって県南は被害が甚大でしたが、夏は猛暑日が続き30年に一度の異常気象だそうです。皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。私は毎日忙しく駆け回っております。

7月23日は東京で全国林活議連の総会が開かれ、県議会林活議連川口一会长と共に幹事長に選出されました。全国の県議会林活議連に呼びかけて結成して以来22年が経ち、感慨ひとしおの感があります。これまでの経験を活かし森林・林業・林産業活性化にこれまで以上に頑張る所存であります。ご支援の程よろしくお願いたします。

林野庁長官に面談

秋田県森林・林業・林産業活性化推進議員連盟連絡協議会(通称・林活議連 会長 川口一県議)は7月24日午前、林野庁沖修司長官を訪ね要望活動を行いました。同会は県議会をはじめ県内の全市町村議会に結成されている林活議連で構成され、毎年この時期に要望活動を行っています。

当日は、川口会長ほか、県議会、八郎潟町議会、にかほ市議会の林活議連役員6人が同行。森林・林業・木材産業施策の積極的な展開を求めるもので、1)林業施策の拡充 2)森林整備の推進 3)資源循環利用の推進 4)木材利用の推進 5)山地災害防止対策の推進 6)林業従事者の確保と育成 7)国有林野事業の推進などが要望内容です。沖長官は、「中国が木構造設計規範*の改定し木材の使用を8月から解禁するのでビジネスチャンスでもある」と話されました。



【木構造設計規範について】

中国の木構造設計規範とは、木構造の設計に関する工法、構造、材料、強度、防火等の基本事項を定めたもので、日本の建築基準法に相当するもの。

防衛省交渉

8月8日に福島みずほ議員を訪ねました。丁度、防衛省職員が4人見られ福島議員と一緒に交渉に参加しました。もちろん「イージス・アショア配備」についてです。1時間の予定を15分オーバーした交渉で秋田は反対だと強く主張しました。

いくら熱心に説明をされても噛みあいませんでした。6月22日(金)のBSフジ報道番組での飯島勲内閣官房参与の「米国に押しつけられて、イージス・アショアを購入することになった」との発言をふまえて、私が「このことは中期防衛計画にもなかったものを米国への忖度から購入することになったのではないかと聞いたら、職員は「飯島さんがそのように思って(個人的に)発言したのでしょう」と発言。「彼は内閣の相談役で内部の人間でしょう」と私は切り返しました。

電磁波や地下水、津波、ドクターヘリなど様々な問題で地区住民が反対決議しているなど力説しました。配備にあたり最適地としたのは杜撰です。説明のため秋田を訪れ新屋演習場を視察して住宅地が近いのを知ったとの発言には驚きました。新たな土地取得が難しいので防衛省所管の土地の中から一番広い場所を安易に選択したと推測でき、いくら聞いても不安と怒りが増大するばかりです。2基で6,000億円、迎撃ミサイルは1発50億円なら2カ所48発で2,400億円がかかる計算となります。弾薬庫、土地造成、津波対策など全体で1兆円は超えるのは間違いありません。絶対阻止しなければならないと決意を新たにしました。



総括質疑



御成町交差点がスクランブルに◆◆◆

昨年12月議会の一般質問で御成町の交差点をスクランブルにすべきと一般質問で取り上げました。一般質問で取り上げる内容が悩みましたが、話題にすることで理解が広がればいいと思ひ質問し、去る7月18日に工事が行われ実現しました。

質問 事故防止の観点から歩車分離交差点が県内でも増えていますが、秋田市内と違い地方では斜めの横断歩道がありません。このことから青信号が点灯しても、一旦まっすぐ渡った後にもう一方に渡らなければならない、大人でも急ぎ足でなければ渡れません。特に高齢者は途中で信号が赤になることが多く、もう一度待たなければなりません。青信号の時間を伸ばすか、斜めの横断歩道を引いてもらえないかという声が高まっております。斜めの横断歩道があれば早く渡れますし、歩行者に喜ばれるのは間違いがありません。是非、歩行者の不満解消に新年度予算を増額し、斜めの横断歩道を増やしてほしいものであります。

県警本部長答弁

交差点で、斜めの横断歩道を設置する場合は、歩行者と自動車の通行を時間的に分離させる歩車分離式信号の運用が必要ですが、現在当県で歩車分離式信号の交差点は41箇所、そのうち歩行者が斜め方向へ横断できる、いわゆる「スクランブル方式」を9箇所で実施しております。歩車分離式信号は、横断歩行者の安全を確保するためには有効な信号制御であり、斜め横断が可能となるスクランブル方式に変更することで、歩行距離が短縮され、県民の方々の利便性の向上はもちろん、高齢者の方々にとっても、優しい道路環境となる一方で、車両の待ち時間が長くなるなどのデメリットがあるほか、歩道の道路改良工事も必要となるため、交差点ごとの状況に応じたスクランブル方式への変更を積極的に検討してまいります。



生活保護について

質問 秋田県では、1人暮らしの高齢者世帯が毎年2,000世帯増えており、生活保護制度を知らない高齢者が多いのではないかと懸念している現状についてどう思うか。

部長 生活保護を受けている生態類型を見ると、高齢者世帯の割合が57%と極めて高い状況である。対象者に制度をしっかりと周知することが重要と考えている。

質問 特にどのような形で力を入れてきて、どのような成果をあげたのか。

部長 生活保護は権利のある人は当然受けることができる制度であり、制度を知らなくて生活保護を受けられないということがないように制度周知を図るのが、県、市町村の役目だと思う。福祉事務所、市町村、社協を対象にしたセミナーや研修会の開催、見守りネットワークと通じた制度周知、早期の訪問活動などを行っている。

質問 今年の10月から生活保護額が段階的に切り下げられるが、本県への影響はどのように考えているか。

部長 今回の生活保護制度改正の内容については、一般低所得世帯の消費実態と生活保護基準額との均衡を図ることを目的に見直しがされている。主な見直しの内容としては、生活扶助基準額の本体の見直しに加え、児童養育加算として、現行で中学生まで月10,000円支給しているものを高校までに対象を広げることと、母子加算については、子ども1人当たり月21,000円のを月17,000円に減額することとしている。厚労省の推計では、全国の保護世帯の67%が減額となる見込みであるが、本県の場合、都市部のみで減額しており、県全体では増額となっている。

ラウンドアバウト視察

建設委員会の県外視察(7月17日)に同行し、印象の強かった長野県安曇野市ラウンドアバウトを紹介します。ラウンドアバウトとは交差点の一種で、3本以上の道路を円形のスペースを介して接続したもので、この円形の真ん中には「中央島」と呼ばれる、円形の通行できない区域があります。車両はこの中央島の周りの環状の道路を一方方向に通行します。市の職員から時計回りで事故もなく停電時の災害時でも有効という説明がありました。御成町1丁目の旧小坂鉄道傍の変則交差点に活用できると思いました。

